

ノートに関して

先日、富山県の黒部市吉田科学館へ行ってきました。

楽しみながら自然と科学への理解と関心を深める場、自然の神秘に感動し創造の喜びを知る場として、公益財団法人が運営しています。プラネタリウム施設や子供の作品展示、YKK 株式会社創設者吉田忠雄氏を讃える展示物などがあります。(当館ホームページ参照)
様々な科学館がありますが、他館と比較しながら見学しました。

私が、一番興味を持って見たことは、吉田忠雄氏のノートの写真展示でした。
3点の掲示がありました

①アジア視察に行くときのノート

今なら、デジタル機器で手軽に情報収集できるでしょう。

そのような時代なので、ノートに、訪問する国の様々な情報を記入していました。

ノートかではなく、経済視察なのに、その国の歴史や文化等様々な情報を簡潔にまとめ、知識を持って視察に臨んでいる態度に感動しました。



②原価計算

経理や企画部門だけに任せるのではなく、自分自身でシミュレーションしています。

説明文にもありますが、「手帳やノートは自分にとっての暗記帳であり、経営の虎の巻である」と述べています。リーダーとして方向性を持っていたのでしょう。

現役当時、この手帳を持ち歩いて仕事に当たっていたのではないでしょう



③ファスナー検査試験成績

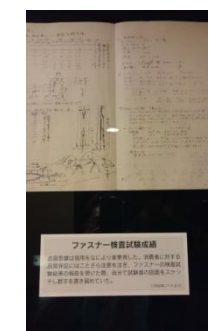
信頼性が最重要な製品です。

検査方法や成績を緻密にまとめ手元に置いておいたようです。

これをもとに、改善や開発を練り、議論したのでしょう。

時代が違うので、使うメディアや表現法はちがうと思うが、大切なことを整理し、次の戦略を練る態度は変わらないだろう。

ただ、気がついたときに気軽に書き加え、リアルタイムに比較検討でき、保管も容易で、必要に応じてすぐに取り出せる、また、データ自体が唯一なもので、どれが原本なのかわからなくなるリスク対応は、ノートが優れているかもしれない。



いま、若い先生方に、自分が若かりし頃の授業ノートを見せるとたいへん重宝される。中には、借りていく方もいらっしゃいます。パソコンのデータもあるが、ノート媒体も十分役立っている。

博士論文に関する問題もあったが、やはり記録したノートは大切なもののなのだろう。ましてや児童生徒が、毎日の授業やテスト前に見直すためにノートは言うに及ばないと思う。

改めて、ノートの活用を研究してみる必要がある。(というかしないといけないだろう。)